

2009年度 事業報告書

(付:2010年度事業計画・予算及び役員・委員名簿)

2010年8月

AUGUST 2010

ANNUAL REPORT 2009



財団法人ロータリー米山記念奨学会
ロータリー国際関係協議会認定FC0229

財団法人ロータリー米山記念奨学会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

Tel:03-3434-8681 Fax:03-3578-8281

ホームページ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>



RYS.40H.10-8



財団法人ロータリー米山記念奨学会
ロータリー国際関係協議会認定FC0229

財団法人ロータリー米山記念奨学会

Rotary Yoneyama Memorial Foundation, Inc.

CONTENTS

はじめに

2009年度を振り返って 理事長 板橋 敏雄

設立趣意書 2

目的と事業 3

事業・会計報告

2009年度 事業報告 4

2009年度 会計報告 29

米山記念奨学会中国学友会2010総会 32

事業計画・予算

2010年度 事業計画 34

2010年度 予算 47

2010年度 主要年間計画表 48

役員・委員

理事・監事・評議員 50

選考委員・専門委員 54

米山奨学委員長・米山委員 55

組織図・職員

組織図・職員 56



2009年度を振り返って

財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長 板橋 敏雄

日本のロータリーが世界に誇る事の出来る当奨学制度は、益々その成果を確実なものにしながら発展を遂げています。それもひとえに日本のロータリアン皆様の献身的なご寄付と奨学生を育てようと言う各地区世話クラブ、カウンセラーの愛情によって支えられているものと心より深く感謝申し上げます。本年、発足以来、お世話した奨学生の数は15,776名になりました。そして、学友の出身国・地域は、中国、韓国、台湾をはじめマレーシア、ベトナム、インドネシア等、96%がアジアからであります。彼等は、母国に帰られた後も、夫々のお国に於いて、中堅以上の地位に就いて活躍されて居り、日本に於いて受けた奨学金だけではなく、ロータリアンの深い愛情を心に刻んで居り、如何に親日の感情を母国に於いて築いて行くかを真剣に考え、努力をされております。日本ロータリーの創始者の米山梅吉翁の打ち立てられた金字塔に私達は、一步一步近づいている事を誇りに思います。

今期に於いては、特に嬉しいニュースが続々と届いております。

先ず、一番歴史があり社団法人となっている台湾の学友会、(社)中華民國扶輪米山会に於いては、毎年12月に総会を開催し、全国3支部からの活動報告を行います。そして、昨年度から彼らの資金で、日本から台湾の大学への留学希望者を選考して奨学金を付与し、カウンセラーによる指導をされています。今年は二人目の留学生を選考中です。また、暫く停滞をしておりました韓国の学友会が今年度見事に復活いたしました。柳京子さん(4代目会長)が全国に連絡を取り、去る5月の総会には、約80名の学友が集まり、今後の発展が期待されます。5月30日に認証状伝達式が海外、国内ロータリアンの400名以上の参列者の下開催されスタートしました東京米山友愛RCは、29名の会員のうち18名が米山学友です。正に、奨学生としてロータリーを学んだ学友のロータリアンとしての素晴らしい船出でした。昨年3月に、北京に於いてスタートした中国米山学友会では、姫軍会長の心を打つ挨拶に参加者3名は感動の極みでした。今年7月17日に第2回総会が上海で開催され、日本から253名のロータリアンと家族が参加、学友161名と合わせ、414名の大盛会でした。最後に「手に手繋いで」の大合唱は、正に圧巻で感動そのものでした。景気停滞の中にあっても、この火をより赤々と燃やす為に、我々の更なる努力を誓い合いました。

どうぞ2010年度も変わらぬご理解とご奉仕を心よりお願い申し上げます。

設 立 趣 意 書

財団法人 ロータリー米山記念奨学会

この法人は、主としてアジア諸国、又はその他のロータリー所在国の学生又は学者に対し、わが国において勉強又は研究するための奨学金を支給し、よってロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することを目的として設立する。

この法人は、昭和24年に東京ロータリー倶楽部が設定し、昭和32年に全国のロータリークラブに参加を求めて以来、逐年発展し、今や在日全ロータリークラブの共同事業となり、国際留学生に対する奨学金の支給を通じて、所期の目的たる国際理解と親善にも多大の成果を収めつつある、ロータリー米山記念奨学会の事業と財産を継承し、法人化によってその基礎を確立し、今後一層奨学事業の発展を期するため設立されるものである。

この法人は、全国ロータリークラブの寄付を主たる財源とし、ロータリー会員によって運営され、ロータリー目的達成に寄与することを目的としている。

昭和42年

(財)ロータリー米山記念奨学会の目的と事業

米山記念奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的としています。

米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会やロータリーの奉仕活動に参加することによって、日本の文化、宗教、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

年間の奨学金支給額はおよそ12億5千万円、1967年に財団法人として認可されて、これまでに119カ国から15,776名の奨学生を支援してきました。規模と実績ともに民間で最大の留学生奨学団体となっています。

2009年度 事業・会計報告

(2009年7月1日～2010年6月30日)

I. 奨学生の募集と選考	5
II. 全国学校情報の収集と地区への提供	11
III. カウンセラーフォローアップ	11
IV. 学友ホームカミング制度	12
V. 学友のフォローアップ	14
VI. 学友会活動の支援	15
VII. 広報活動と各種資料の刊行	15
VIII. 寄付金の推進	18
IX. 会議および研修会の開催	21
X. 庶務事項	23
XI. 会計報告	29

I. 奨学生の募集と選考

奨学生	2009学年度	2010学年度	月額奨学金	奨学期間
学部課程奨学生 (YU)	136名	203名	10万円	2年以内
	学部3、4年目および医、歯、獣医学部5、6年目 ※2010学年度から国籍による制限をなくした。			
修士課程奨学生 (YM)	410名	376名	14万円	2年以内
	大学院修士課程1、2年目			
博士課程奨学生 (YD)	241名	213名	14万円	2年以内
	大学院博士課程2、3年目および医、歯、獣医学系博士課程3、4年目			
地区奨励奨学生 (DS)	19名	16名	7万円	1年
	短期大学、高等専門学校専攻科、専修学校専門課程、準備教育課程、アジア学院、PHD協会など			
クラブ支援奨学生 (CY)	12名	10名	14万円	1年 または6カ月
	学部・修士課程の最終学年に在籍する米山奨学生で、同地区および近隣地区所在の大学の 上級課程進学者。博士課程最終学年に在籍する米山奨学生で、博士号取得見込みの者			
現地採用奨学生 (JRY) 施行国:ベトナム	6名	5名	7万円	修士2年間 博士3年間
	最終的に日本の受入大学から渡日前入学許可書を受領できる者			
海外学友会推薦奨学生 (SY-A)	2名	※3 3名	14万円	1年
	韓国、台湾の学友会が組織する選考委員会より推薦された韓国、台湾の大学・研究機関に所属する常勤の上級研究者(博士号取得者)			
合 計	※1 826名	※2 826名		

注：学年度は4月から1年間。ロータリー年度とは異なる。

※1 2009学年度は、800名採用。26名多くなっているのは、休学延長者4名、地区奨励奨学生9名、奨学期間0.5年カウント13名による。

※2 2010学年度は、800名採用。26名多いのは、休学延長3名、地区奨励奨学生8名、奨学期間0.5カウント14名、前年度採用の海外学友会推薦奨学生2010年6月終了者1名による。

※3 海外学友会奨学生の奨学期間は、毎年7月～翌年6月終了の1年間。このため、前年度の採用生1名を含めてカウントしている。800名採用枠外にてカウントする。

1. 2010学年度奨学生数と選考

(1) 採用数と奨学金別採用枠の設定

2010学年度奨学生数は800名とし、その内訳を学部・修士・博士課程・地区奨励・クラブ支援奨学生枠を793名、海外学友会推薦奨学生枠を2名、現地採用奨学生枠を5名と決定しました。なお、地区奨励奨学金とクラブ支援奨学金は、各地区の採用数の20%以内が採用枠となります。

【2010学年度奨学生採用枠・採用数・応募数】

奨学金種類	採用枠	採用数 (前年度)		応募数 (前年度)
学部・修士・博士課程奨学生	793	203 (136)	1,550 (1,427) 指定校465 (433)	
		818 (818)		
		376 (410)		
		213 (241)		
地区奨励奨学生		16 (19)		
クラブ支援奨学生		10 (12)		
現地採用奨学生	継続5名	継続5名	5 (6)	2010年度休止・検討中 (10)
海外学友会推薦奨学生	2	3 (1) ※前年採用が6月終了のためカウント	継続: 1 新規: 2 (2)	6 (4)
合計	800	826 (826)		1,556 (1,441)

2010年7月現在

(2) 募集と選考 ※ () は前年度を示す。

①学部・修士・博士課程、地区奨励奨学金制度の募集と選考

奨学生(学部・修士・博士課程、地区奨励)は、各地区で指定した大学及び学校465(433)校の指定校推薦制度によって募集が行われ、408(359)校から1,533(1,410)名の応募を、クラブ支援奨学金17(17)名を併せて合計1,550(1,427)名の応募を受けました。各地区選考委員会にて書類・面接選考を経て合否が2010年2月初旬まで行われました。また、指定を受けたにもかかわらず応募がなかったのは57(73)校、今後、地区選考委員会において大学側への事前の情報収集が必要とされます。

■高等専門学校専攻科1・2年目を学部3・4年目相当とする制度

高専専攻科は、2年ぶりに、2530/2740/2800の3地区から3校が指定されました。そのうち2740地区が指定した佐世保工業高等専門学校専攻科から1名の応募があり選考の結果採用されました。

高等専門学校在籍の留学生は、国費奨学金を受給している率が多いため、米山奨学金に応募する機会が少ないのが実状です。2740地区の場合、事前に指定校担当者に在籍者の応募資格の確認をするなどして、高等専門学校を指定しました。

専攻科を学部相当と認めたのが2006年度採用からですが、初年度に和歌山高等専門学校専攻科で1名の合格を輩出して以来、累計2名です。

■地区奨励奨学金制度(大学・大学院以外の学校を指定校とする制度/

月額奨学金が大学院生の半額7万円のため、割当数1名枠で2名採用が可能)

2010学年度募集は、5地区が地区奨励奨学金制度を導入し、9校が指定されました。既にこの制度を運用している2660地区では、新たに大阪ハイテクノロジー専門学校を指定するなど、積極的に大学以外の高等教育機関を応募の対象としています。被推薦者の応募は4地区8校20名で、最終的に16名が合格しました。

【地区奨励奨学金制度の指定校】 ※印：初めて地区奨励奨学金制度を導入した地区

	2008年度採用			2009年度採用			2010年度採用								
	被推薦枠	申込数	採用	被推薦枠	申込数	採用	被推薦枠	申込数	採用						
導入地区	2550	アジア学院	4	4	4	2550	アジア学院	4	4	4					
	2660	JASSO大阪日本語教育センター	2	2	2	2500	帯広大谷短期大学 ※	2	2	2					
						2660	釧路短期大学 ※	1	1	1					
	2680	(財)PHD協会	3	3	3	2550	アジア学院	2	2	2					
		神戸YMCA日本語学校	1	1	1	2650	教賀学園短期大学 ※	3	2	2					
	2710	広島YMCA学院専門学校	4	4	2	2660	JASSO大阪日本語教育センター	2	2	2					
		日本航空大学校	2	0	0	2680	滋慶学園 ※	2	2	2					
	2620	静岡工科専門学校	1	0	0	2680	神戸YMCA日本語学校	1	1	1					
		オイスカ開発教育専門学校	1	0	0		(財)PHD協会	3	3	3					
	2600	清泉女学院短期大学	2	0	0	2710	広島YMCA国際ビジネス専門学校	4	4	2					
					福山YMCA国際ビジネス専門学校 ※		4	4	2						
					2720	有明工業高等専門学校 ※	2	0	0						
合計	6地区	9校	20	14	12	7地区	11校	26	23	19	5地区	9校	23	20	16

■地区を越えた大学を指定校とする制度

2570地区と2580地区が昨年に引き続き、2750地区が初めて地区を超えて大学を指定しました。合格後、奨学生が世話クラブ例会に出席するのに支障がない範囲を基本に、隣接する地区所在の大学を指定できる制度です。2570地区は国立大学法人が地区内に所在しないため、隣接の埼玉大学を指定しています。

【地区を超えた指定校】

2008年度採用		枠	申込数	合格	2009年度採用		枠	申込数	合格	2010年度採用		枠	申込数	合格
2570	埼玉大学	4	4	1	2570	埼玉大学	3	2	1	2570	埼玉大学	3	3	1
					2580	帝京大学(八王子キャンパス)	1	1	1	2580	一橋大学	2	2	1
					2720	有明工業高等専門学校	2	0	0	2750	東京芸術大学(上野)	3	3	1
											学習院大学	1	1	1
											早稲田大学(東京)	6	6	2
											東京海洋大学	3	3	1
		4	4	1			6	3	2			18	18	7

※2010年度採用において、2750・2580は、複数キャンパスがあり、且つとりまとめ担当がいる大学には、通学可能な範囲で地区内外からの応募を認める指定をした。

■指定校に対する「地区からの選考の目安」提示地区

34地区のうち26（前年25）地区から指定校に対して学内選考の目安が示されました。項目でのトップは、例年どおり、「国籍の偏りへの配慮」が21（21）、続いて「日本語能力」19

（16）、最終学年在籍者（奨学期間1年以上）10（10）と大きな変化は見られません。一方、「ロータリー活動への積極性」が10（5）、そして、「大学院在籍者優先」が8と目立って増えています。ロータリーの特長でもある、交流と親善を求める一方、研究が明確で優秀な学生を採用したいという方針が見てとられます。

特に、2010学年度から中国・韓国の学部生に応募資格が与えられたことによって学部生応募増が見込まれるため、これを抑えようとする意向も伺えます。

②クラブ支援奨学金制度の募集と選考

世話クラブからの推薦によって応募を受け、各地区の選考委員会によって選考が行われました。11地区17クラブからの応募があり、10名が合格しました。内訳は、課程延長の博士課程最終学年在籍者8件中7名、修士・博士課程進学者9件中3名が合格となりました。

【合格数／申込数】

学年度	申込数		博士課程最終学年 合格数／申込数	修士、博士課程進学 合格数／申込数	合格者数
2007	24件	12地区24クラブ	10／12名	5／12名	15名
2008	14件	9地区14クラブ	4／7名	5／7名	9名
2009	17件	8地区17クラブ	4／6名	8／11名	12名
2010	17件	11地区17クラブ	7／8名	3／9名	10名

③海外学友会推薦奨学金制度の募集と選考

台湾学友会および韓国学友会にて選考委員会が組織され、2009年10月から現地にて公募しました。その結果、台湾で5名、韓国で1名の応募があり、現地での書類・面接を経て合格候補者各2名が選出されました。

【合格数／申込数】

年度	採用数／採用枠	韓国 合格数／申込数	台湾 合格数／申込数
2007	2／2名	1／2名	1／4名
2008	1／2名	0／0名	1／6名
2009	2／2名	1／1名	1／3名
2010	2／2名	1／1名	1／5名

【指定校に対する「地区からの選考の目安提示」】

項目／年度	2006	2007	2008	2009	2010
提示地区数	21	26	26	25	26
国籍割合への配慮	15	16	20	21	21
日本語能力	8	11	15	16	19
最終学年在籍者	6	3	8	10	10
ロータリー活動への積極性	5	5	5	5	10
大学院在籍者優先					8
将来日本と母国との親善を深め懸け橋となる			1	7	8
居住地指定(地区内等)		1	3	3	3
研究分野指定		4	4	2	2
その他					11

2010年度その他の内訳
4月入学(2)、卓話実施に協力できること(2)、地域社会との交流(2)、
米山奨学事業への理解(2)、明るく前向き、豊かな人間性 など

④現地採用奨学金制度

現地採用ロータリー米山記念奨学生（Vietnam）は、試行を2007年度から3年間とし、2010年度以降に関しては募集・採用を休止しました。2010年度においては試行3年間のまとめを行い、今後の制度の行方を検討します。その概要は以下のとおりです。

地区	氏名 性別 奨学生番号	母国出身大学	在籍大学 研究科 指導教員	課程	研究テーマ	支給期間	世話クラブ カウンセラー ①②は変更 による順番	留学終了後の予定
2660	タイ・ヴァン・ナム Mr. THAI VAN NAM 男 13769	ホーチミン国家 自然科学大学 大学院博士課程 卒業	大阪大学大学院博士課程 環境工学 盛岡 通教授 東海明宏教授	博士2	ベトナムのエコマーク (環境基準)について	2007.7 -2011.3 3年9カ月間	千里RC 稲邑清也	ベトナムでエコラベルと その評価機構をつくる など、教育者として環境 保全に貢献したい
2580	ゴ・ホン・ニユン Ms. NGO HONG NHUNG 女 13528	ホーチミン市人文 社会科学大学 大学院修士課程 卒業	日本社会事業 大学修士課程 社会福祉研究科 大橋謙策学長 植村英晴教授 北場 勉教授	修士2	ベトナムの福祉文化的 基盤と社会福祉づくり 2010年3月修士号修得	2007.6 -2010.3 2年10カ月間	①東京神田RC 宇都宮鐵彦 ②東京板橋RC 猪飼国昭	ベトナムに戻り、ベトナムの福祉環境づくりや 政策などに貢献する役割 を果たしたい
2750	ゲン・タイ・ヴィエト・ハー Ms. NGUYEN THAI VIET HA 女 14205	ホーチミン市人文 社会科学大学 大学院修士課程 卒業	早稲田大学大学院 修士課程 アジア太平洋研究科 白石昌也教授	修士2	ホーチミン南部に進出している 日系製造企業のCSR(企業の 社会貢献)の現状と課題 -環境問題を中心として-	2008.9 -2010.8 2年間	①東京原宿RC 橋本紀子 ②東京武蔵府中RC 伊藤富夫	母国で就職し、CSR推 進企業で自分の力を出 したい
2680	チャン・ミン・フエ Ms. TRAN MINH HUE 女 14374	貿易大学 大学院 修士課程卒業	神戸大学修士課程 国際協力科 藤田誠一教授	修士2	アジアの経済統合に おけるベトナムの課題	2008.10 -2010.9 2年間	神戸東RC 向井菊美	母国の金融機関に就 職
2590	ホ・ダン・ミアン Ms. HO DIANG MY AN 女 14748	フエ大学 外国語学科	(財)アジア学生文化 協会大学進学課程 1年後に修士課程進学予定	研究生	初級日本語の教え方	2010.4 -2013.3 3年間	川崎麻生RC 鈴木憲治	現職のフエ大学に戻り、 日本語教師として従事 し、日本文化を含めた日 本語の指導にあたる
2590	チャン・ティ・フオン・ツイ Ms. TRAN THI PHUONG THUY 女 14749	ハノイ大学 文学部 日本語研究	一ツ橋大学大学院 修士課程 言語社会研究科 五味正信教授 1年後に修士課程進学予定	研究生	現代日本における 若者言葉についての 考察	2009.10 -2012.9 3年間	横浜南RC 松中泰徳 蒲 隆夫	現代日本における若者 言葉についての研究 の集大成

現地採用奨学金制度による採用は試行3年間（2007年～2009年）において6名の奨学生を採用しました。6名中1名：ゴ・ホン・ニユン氏（日本社会事業大学）が修士の学位を取得し2010年4月に帰国。現在ベトナム・ホーチミンにて就職活動中、残りの5名は2010年秋終了予定2名、2011年3月終了予定1名、2012年9月終了予定1名、2013年3月終了予定1名と続きます。

試行期間中に採用した6名（現在5名）の募集・選考・受入体制の課題を整理し、今後の制度自体の方向性を見極めるために以下の問題を整理しています。

検討項目：

1. 留学生にとって一番困難な時期といわれる入国初年度に、経済面とカウンセラー制度による心のケアの支援を受けられる奨学金制度の意義を確認。
2. 既存の奨学金（YD・YM）の年間奨学金額168万円に比べて、高額にならない支援額にするための方策。
3. 日本に来ることもできない優秀な留学生を、現地募集・選考で探し、ロータリアンによる1回の面接で相応しい学生を採用することが可能かどうか。
4. 日本の進学大学・指導教員を応募者自らが研究し探すことは必須とすべきかどうか。
5. 日本語運用能力を現地採用奨学生に求めるのは条件が高すぎないか。

現地採用3年間試行メニュー

特長	1年目	2年目	3年目
ホーチミン募集	ホーチミン市人文社会科学大学 (USSH) 窓口		
日本語力	日本語力問わず		3級以上
年齢	30歳未満	修士進学：25歳未満 博士進学：30歳未満	
現地日本語研修	実施 (平日拘束のため辞退発生)		実施せず
研究分野	医学系のみ除く全分野		環境、情報、 日本文化・教育
受入地区・大学指定	指定無し。研究分野に一致する指導教員のいる大学所在地区が最終的に受入地区。 大阪大学大学院博士課程 (1)、日本社会事業大学大学院修士課程 (1)、早稲田大学太平洋研究科修士課程 (1)、神戸大学大学院修士課程 (1)		2590地区 (財)アジア学生文化協会 日本語コース 一橋大学大学院研究生
受入教授・大学	面接終了 (12月) 後に、受入教授・大学選定。受入決定までに時間がかかる		面接前から受入教授・大学選定が可能。
面接官	選考委員長・副委員長担当		2590地区役員委員
来日後日本語教育	必要に応じて日本語研修実施 (4名中1名)		実施せず

(3) 2010学年度奨学生数

2010学年度奨学生採用数は、826名でした。超過の内訳は、休学延長3名、地区奨励奨学生8名、奨学期間0.5カウント14名、前年度採用の海外学友会推薦奨学生2010年6月終了者1名です。

2010学年度奨学生における国籍割合は、中国48.7% (前年46.4%←前々年度47.1%)、韓国14.2% (13.2%←14.3%)、台湾6.1% (6.3%←6.6%)、その他31.1% (34.1%←32.0%)となりました。

選考委員会で、国籍割合の目安を3割以下にされるよう各地区へ通知をしていますが、在日留学生数の約60%を占める中国籍の留学生の率は依然高くなっています。

【国別・奨学金別一覧】

国籍	博士課程	修士課程	学部課程	クラブ支援	地区奨励	現地採用	海外学友会推薦	総計	米山奨学生	在日留学生 (2009年5月現在)
中国	109	234	51	3	5	0	0	402	48.7%	59.6%
韓国	37	41	34	3	1	0	1	117	14.2%	14.8%
台湾	16	17	14	1	0	0	2	50	6.1%	4.0%
その他	51	84	104	3	10	5	0	257	31.1%	21.6%
総計	213	376	203	10	16	5	3	826	100.0%	100.0%

2. 地区別奨学生 (学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援) 採用数の算出基準

2010学年度奨学生 (学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援) 採用数793名の地区別採用数の算出方法は、以下の基準で算出しました。地区別有資格者数は、全国2009年4月現在の新設大学・大学院10 (前年度11) 校を含む765大学および高等専門学校64校を対象に2009年5月に行った調査を基にしています。

- ① 1割 (79名) を地区別有資格者数比率で34地区に割り当てる
- ② 5割 (397名) を2007年度個人平均寄付額比率で34地区に割り当てる
- ③ 4割 (317名) を2007年度寄付総額比率で34地区に割り当てる

有資格が多い地区への配慮から、全体の1割が地区別有資格率によって割り当てられていま

す。これにより、2580地区が約11名、2750地区が約10名、2650地区約5名など、寄付額とは別に地区内留学生の有資格率に比例して奨学生採用が割り当てられています。

II. 全国学校情報の収集と地区への提供 (留学生担当者・在籍数・特長等)

毎年5月に全国の大学・高等専門学校に対し、WEB回答方式のアンケート調査を実施しています。各校の在籍留学生数 (キャンパス別、国・地域別、学年別)、学校担当者連絡先、留学生受け入れ体制の特長について、回答を得ます。調査結果は、地区別奨学生割当数の基礎数および各地区の指定校選定資料となります。

2010学年度は、2009年5月7日～5月18日に調査を実施しました。

学校アンケート：

1. 目的 ① 学校・キャンパス別在日留学生数の把握
② 地区別奨学生割当数算出のための基礎数
2. 内容 ① 学校・キャンパス別担当者名と連絡先
② 国・地域別、課程・学年別在籍者数
③ 学校の留学生受け入れ体制のPR、渡日前奨学金制度導入の有無等
3. 対象者 全国の大学・高等専門学校
4. 調査方法 記名方式、専用WEBサイトでの回答

アンケート結果から、地区別有資格者数および「2010学年度地区別奨学生割当数」を算出し、これをもとに新規採用数を算出しました。また、地区の指定校選定のための資料として、下記を各地区の奨学生選考委員会へ配布しました。

1. 募集要項概要
2. 2010学年度地区別米山奨学生採用数 (割当数)
3. 指定校選定マニュアル
4. ①指定校被推薦者数 ②地区独自の選考目安提示の有無
5. 大学窓口、PR、留学生数
6. 指定校採用実績

資料は、地区において、正確な在籍留学生数や留学生の出身地域の把握とともに、大学の留学生受け入れに対する熱意を知る資料となっています。地区単位では、指定校選定にあたり、学校訪問や学校担当者対象の奨学生募集説明会などが実施されました。地区内の大学と連絡関係を維持することは、米山奨学事業の目的や地区選考委員会として推薦してほしい具体的な奨学生像を継続的に学校側に伝えることにつながっています。

III. カウンセラーフォローアップ

1. カウンセラー研修会

カウンセラー研修会の実施は8年目となりました。ロータリー米山記念奨学会事業の特長である「カウンセラー制度」の充実と強化を図ることを目的に、全地区で米山カウンセラーを対象と

した研修会の実施を呼びかけました。研修会は17地区で実施され、約500名が参加しました。

各地区の研修会で各地区の研修会のために必要なモデル・カリキュラムなど、研修会実施の補助資料を提供しました。特に、文化・習慣の違いや多様な考え方に関する事例を示し、カウンセラーとしてどのように対応することが求められるかなどの事例研究をカウンセラーハンドブックにシリーズ化して掲載するなど、新たな研修スタイルとして考える研修会づくりのための資料を提供しました。

また、大学の留学生課教授による講演を加える地区など、留学生事情の把握に努める地区もありました。

2008年4月に開設した「ハラスメント相談室」の存在をアピールし、奨学生もカウンセラーも共にハラスメントへの認識を持つことの重要性を研修会で呼びかけました。

2. カウンセラーアンケート調査

米山記念奨学事業の要であるカウンセラーから意見や情報を収集し、システムや制度改善、カウンセラー研修会などの資料として活用することを目的に、2008学年度終了のカウンセラー618名を対象に2009年10月から1カ月間にかけてWeb調査による「カウンセラーアンケート」を実施しました。回答率は45.5%、281名からの回答を得ました。

カウンセラーを経験するのが初めてという割合は7割前後で、カウンセラー経験者の9割近くが、「カウンセラーを経験して良かった」および、「良い経験なので次は他の会員に勧めたい」という意見でした。この数値は過去の調査でも同様の傾向です。カウンセラーを複数年経験したロータリアンによるバックアップも重要ですが、カウンセラーとして奨学生に直接接することが米山奨学事業の意義や目的を理解・実感してもらえる近道です。調査からカウンセラーが実感した“カウンセラー制度のメリット”や“留学生支援の意義と重要性・やり甲斐”をハンドブックや研修会資料として提供すると共に「奨学生との消息が途絶えてしまうことの実状」などにも問題を向け、事例研究としてハンドブックに掲載し、取り組みへの工夫に努めました。

IV. 学友ホームカミング制度

活躍する学友を地区に里帰りさせ、旧交を温め、その成長と活躍ぶりをアピールしてもらうための“米山学友ホームカミング制度”が2008年に設立され、2年目を迎えました。初年度は13地区での実施と2名の奨学会広報企画による招へい、合計15名の招へいに続き、2年目の2009年度は、19地区でホームカミングが実施されました。初年度に引き続いて実施した地区に加え、新たな地区での招へいが増加しました。

地区関係者と学友にアンケートを行った結果、満足との回答が上位を占め、関係者からは、「想像していた以上に成果がある」あるいは、「地区内ロータリアンへ更に広報が必要」との継続的な実施の有効性を実感する多数の声が寄せられました。19名のホームカミングの記録は、冊子「2009年度ホームカミング制度実施報告」にまとめ、関係者および地区役員・米山委員に配付しました。

年度	開催地区数
2002	9
2003	24
2004	19
2005	22
2006	20
2007	17
2008	19
2009	17

ホームカミング制度により里帰りが実現した19名

※印は地区を超えて招待

実施地区	学友氏名(敬称略)	国籍	現在の活躍	招へい期間/参加行事	世話クラブ
1	2800 ジャンチブ、ガルバドラツハ	モンゴル	新モンゴル高等学校校長。モンゴル初の3年生高校として2000年設立、母国の実情にあった学校制度を導入。ロータリアンをはじめ山形、宮城県を中心に多くの団体が設立と活動を支援した。	8/19-24 (6日間) 米山セミナー、学友会設立総会他	山形北
2	2760 * ゲン 允 阮 インキョウ 允恭	台湾	07-09年(社)中華民国扶輪米山会第4代理事長。新潟県中越沖地震等の義捐金送付や梅吉翁墓参ツアーなど台湾学友をまとめ、米山奨学事業の日台交流に尽力。	9/9-13 (5日間) 学友会総会ほか	神戸 (2680)
3	2510 リン 岳 林 タケキ 岳毅	台湾	健康食品と有機野菜レストランを経営。材料の安全を保証するレストランの先駆者として注目されている。台中文心RCチャーターメンバー	10/2-5 (4日間) 地区大会ほか	札幌 清田
4	2610 ブー 慎 蒲 ションリン 慎玲	台湾	開元食品工業株式会社資材部で、日本からの食品仕入担当。終了後も、会員の訪台時には通訳や案内などの協力をし、現在も世話クラブとの交流が続いている。	10/2-5 (4日間) 地区大会ほか	高岡
5	2780 * チェ 相 崔 サンヨン 相龍	韓国	高麗大学校政治外交科名誉教授、法政大学(日本)特任教授。駐日韓国大使(2000-02年)、2005年「日韓友情年」の韓国側諮問委員長として、日韓交流に多大な役割を果たした。	10/10-13 (4日間) 地区大会ほか	東京日本橋 東京城西 (2750)
6	2690 リン 維 林 ウェーホン 維宏	台湾	羽音廣告(股)公司総経理。台北民生RC会員であり、台湾学友会の常務理事として台湾のロータリー活動と学友の日台交流を支える。08-09年度ガバナー補佐。	10/16-21 (6日間) 地区大会ほか	岡山南
7	2540 イン 敏 殷 ビン 敏	中国	07-08学友会会長。南京医科大学附属病院で耳鼻科副教授。2008年四川省大地震では、医療大隊長として医療復興支援に当たった。	10/22-29 (8日間) 地区大会ほか	秋田東
8	2730 バオ トウリキコン 包 特力根 白乙	中国	大連水産学院経済管理学院教授。日中韓の研究プロジェクトや学術論文、講演多数。日本国際漁業研究会山本賞受賞(2007年)。	10/22-29 (8日間) 地区大会ほか	鹿児島 中央
9	2580 * ヨウ 広 楊 コウヘイ 広平	中国	南開大学法学院准教授、上海の法律事務所顧問を務める。将来、中国の信託法の整備と信託業の開拓を目指している。	10/5-12 (8日間) 例会、地区定例会	東京 立川こぶし (2750)
10	2590 ヤン 軍 楊 ジュン 軍	中国	南開大学教授。学生指導及び、天津市と中国政府による2つの人工肝臓プロジェクトを支える。	11/4-10 (7日間) 地区大会ほか	横浜
11	2620 アイ ショウ ヨウ 艾 暁 庸	中国	ハルビン市経済合作促進局副局長として日本をはじめ東アジア地域の経済協力の推進に携わる。	11/6-12 (7日間) 地区大会ほか	甲府南
12	2770 キム ヒョンフン 金 玄勲	韓国	社会福祉法人「幸福創造」理事長、ソウル市在宅老人福祉協会会長、Kids'AU韓国代表等、子どもから高齢者までを対象に真心を込めた社会福祉事業に力を注ぐ。	11/14-17 (4日間) 地区大会ほか	大宮 西南
13	2820 ル ハンピン 魯 漢平	台湾	国立彰化師範大学の専任准教授。書・てん刻・水墨などの研究・個展・著作で活躍。	2010/2/7-14 (8日間) IM卓話ほか	古河東
14	2660 キム スウキ 金 守基	韓国	家畜増殖に関係する蛋白質研究で博士号取得。現在、建国大学校動物生命科学大学准教授。研究のほか学生指導を行う。	2010/2/23-28 (6日間) 地区大会ほか	大阪 西南
15	2600 カ レイ セイ 賈 黎 静	中国	河北医科大学第三附属病院内分泌科助教授。糖尿病足病変の治療法を発見、院内に専門科創設。	2010/4/9-16 (8日間) 地区協議会ほか	あずみ野
16	2700 チョウ シュンラン 張 春蘭	中国	南京農業大学人文社会科学学院の准教授。教育社会学の専門と留学体験を活かした講義で、多くの指導学生が日本留学している。現在もクラブとの交流が続いている。	2010/4/15-21 (7日間) 地区大会ほか	行橋

実施地区	学友氏名(敬称略)	国籍	現在の活躍	招へい期間/参加行事	世話クラブ
17	2640 キン ビリン 金 美林	中国	浙江樹人大学日本語学科日本語教員。大阪府立大学博士号取得後帰国するまで、現役奨学生の指導役として活躍。	2010/4/15-21 (7日間) 地区大会	貝塚 コスモス
18	2750 ※ ジ 姫 ジュン 軍	中国	北京で弁護士として活躍。主要顧客の日本企業の一つが原告となった商標権侵害訴訟では過去最高の賠償額を勝ち取る。「恩返しと次世代のために」と毎年50万円を寄付。	2010/5/27-31 (5日間) 東京米山友愛RC チャーターナイト	東京臨海 (2580)
19	2550 ケツ サイフォン 郭 思坊	マレーシア	シャープのマレーシア現地法人勤務、商品開発、調査を手がける。帰国後も会員との交流が続いている。ご主人も米山学友。	2010/6/12-14 (3日間) クラブ15周年 記念式典	宇都宮 陽北

V. 学友のフォローアップ

1. 災害・感染症流行時における学友・奨学生への対応

事務局では災害や感染症など特別なケースが生じた場合、注意を促し、奨学生や関係者に安否の確認や被害状況の確認などを行っています。

また2009年度は、新型インフルエンザが世界的に大流行しました。現役奨学生への注意と対応に関して、5月・9月・11月の計3回の注意喚起メールの配信を行いました。

5月の配信に続き、秋～冬期の大流行が懸念されたことから、2度目の注意喚起メールを配信。今回は、発症が疑われる場合は、すみやかに連絡のうえ病院で受診するよう呼びかける厚生労働省の対応に従い、同様の呼びかけをしました。11月には、急速な感染拡大の実態を受けて、さらなる注意を呼びかけました。11月は、発症した場合に受診だけでなく学校を休むこと、診断書や登校許可証など必要な手続きや行事の中止・順延など、大学からの最新情報をよく確認するよう呼びかけました。

また、地震災害については、下記のとおり、各発生事項に対して該当国・地域出身の学友および奨学生へお見舞いメールを配信しました。配信したメールに対して、安否や被害状況を返信してくる学友・奨学生もおり、一方向の注意喚起に留まらない双方向の関係維持のために機能しています。

発生事項	対象
①新型インフルエンザ(2009年4月末頃～)	790名(9月までの終了者36名除く)
②スマトラ島沖地震(2009年9月30日)	142名(インドネシア出身学友・奨学生)
③チリ大地震(2010年2月27日)	4名(チリ出身学友・奨学生)
④青海省地震(2010年4月14日)	12名(中国青海省出身学友・奨学生)

※②インドネシア西部スマトラ島沖のインド洋でマグニチュード7.6の地震発生

※③チリでマグニチュード8.8の地震発生

※④中国青海省でマグニチュード7.1の地震発生

2. 学友・奨学生に対する定期的なメール発信

メールを活用し、学友をはじめ奨学生あてに誕生祝いメッセージを発信しました。定期的なメールの発信は、学友が米山記念奨学生として、あるいは世話クラブの一員としての帰属意識を高める結果となり、連絡先の変更や母国での活躍振りなどが知らされました。この学友からの返信は、『ハイライトよねやま』や『ロータリーの友』の米山記念奨学会のページ「よねやまだより」で活躍顕著な学友を紹介するための素材としても活用されています。

また、確約書において奨学生の義務としている「奨学生レポート」の提出に関して、11月と2月に提出期限を案内するメールを配信しました。

VI. 学友会活動の支援

1. 奨学生数と学友会組織

2010学年度で奨学生の累計は、15,776名となりました。日本に滞在している学友は、約3,900名です。現在、日本国内に30の学友会(34ロータリー地区)、海外では韓国、台湾、中国の3団体、計33団体の米山学友会が組織されています。各学友会では、奨学生終了後もロータリー会員・家族や学友同士の交流が続けられています。ロータリーの国際奉仕活動の目的に沿って展開されている主な活動は、総会、親睦会、学術セミナー、研修旅行および地区米山奨学委員会と連携した奉仕活動、新奨学生のオリエンテーション、セミナー、歓送会への協力などです。

2. インターネットを通じた学友会活動

各学友会では、メーリングリストが作成され、学友間でのメール交換、ホームページで学友会活動を紹介するほか、ロータリアン、ガバナー事務所との連絡や情報交換も活発に行われるようになってきました。

3. 学友会への情報提供

学友のデータ(氏名・奨学期間・連絡先等)を学友会会長やガバナー事務所などに対して開示しています。連絡網をデータ化することにより各学友会で必要に応じた会員への情報発信ができます。ただし、個人情報の保護を遵守するため、その扱いについては万全を期しています。

VII. 広報活動と各種資料の刊行

1. 新しい事業紹介DVD「心つないで、世界へ」の制作

2008年度に完成した「すばらしい贈り物」(22分)につづき、2009年度は、学友の活躍に焦点を当てたDVD「心つないで、世界へ」(15分)を制作しました。

「心つないで」は、昨年度制作したDVDのために撮り溜めた映像を活用しながら、元米山奨学生5人がロータリアンからどのような影響を受け、現在どのような活躍をしているかを伝える

作品としました。

視聴率を高めるため、全クラブへの一斉配布は行わず、FAXでの申し込みに対しアンケートを同封のうえ送付したほか、各地区で開催される「クラブ米山奨学委員長セミナー」「地区協議会」などでの上映を積極的に呼びかけ、その席上で配布していただくよう働きかけました。『ロータリーの友』“よねやまだより”や、全国のガバナー・ガバナーエレクトが集まる場などでも、同DVDの活用を積極的に呼びかけました。「すばらしい贈り物」も希望地区・クラブが引き続き多数あり、DVDを増刷し送付しました。「心つないで」「すばらしい贈り物」の2作品は、ホームページ上でも公開しています。

〔制作数：「心つないで、世界へ」4,000枚／複製数：「すばらしい贈り物」1,000枚〕

2. ロータリーの友・よねやまだより

ロータリー地域雑誌「ロータリーの友」の協力を得て、同誌に米山記念奨学事業のページ“よねやまだより”を掲載しました。奨学事業の一つの“成果”として、支援した元奨学生の活躍を知りたいというニーズに応え、前年度から継続して「世界へはばたけ！米山学友」シリーズを掲載し、特に顕著な活躍をする学友たちの姿を毎号紹介しました。また、コラムでは、奨学事業に関わる最新情報を広く知らせよう努めました。

3. ロータリー米山記念奨学事業・豆辞典

米山月間用資料として、奨学事業の概要をコンパクトにまとめた小冊子を作成し、全ロータリークラブへそれぞれ会員数分配布しました。〔制作数：116,000部〕

また、豆辞典に沿った事業紹介用パワーポイントファイルを全国ガバナー事務所をはじめとする希望者へ送信したほか、今年度はホームページからもダウンロードできるようにしました。

4. 英文リーフレット

海外ロータリアンへの広報を目的に、A4三つ折りサイズの英文リーフレットを作成しました。当会の理事会・評議員会やガバナーエレクト・次期米山委員長セミナー、日韓親善会議、日台親善会議、ロータリー研究会などで配布しました。〔制作数：3,000部〕

5. クラブ米山記念奨学委員長の手引き

クラブ米山記念奨学委員長の事業理解推進のため、基礎知識集としての「クラブ米山記念奨学委員長の手引き」（米山寄付金マニュアルとの合冊）を発行し、米山月間資料として、全ロータリークラブに1部ずつ送付しました。なお、今年度は「事務局保管用」として「米山寄付金マニュアル」のみの冊子も用意し、全クラブに1部ずつ送付しました。〔制作数：4,000部〕

6. 米山学友の群像vol.2

巣立った奨学生たちが、現在どのような活躍をしているのか、ロータリーで体験したことが、その後の人生にどのような影響を与えたのか、奨学事業の成果を知らせる広報資料として、『米山学友の群像』の第2号を2007年9月中旬に発行しました。2009年度については、希望地区・クラブへ送付しました。

7. 寄付金増進

寄付金マニュアル：寄付金納入の手続きや税制上の優遇措置、表彰制度など寄付金について必要な基本情報や個人情報保護の対象となる寄付金実績の取り扱いなどを詳述したマニュアルを作成し、全ロータリークラブに配布しました。

寄付金リーフレット：寄付金の使途と財務状況が一目で分かり、また、米山学友の活躍を紹介したリーフレットを確定申告用領収証とともに送付しました。

8. 事業報告書（Annual Report、統計・資料編）

Annual Report：2008年度事業報告書として全ロータリークラブおよび大学、留学生奨学団体等関係団体に配布しました。事業報告および収支決算報告とあわせて2009年度の事業計画・予算や役員・委員名簿および過去2回行われた基礎調査と2006年度制度改編からみえた課題について記載しました。

〔制作数：4,000部〕

統計・資料編：奨学事業全般の統計・資料、学友会活動、留学生事情、寄付金実績などのデータ集として理事、監事、評議員、専門委員、米山奨学委員長に配布しました。

〔制作数：3,000部〕

9. 米山奨学事業ハンドブック

地区での米山奨学事業の推進に必要な事項を詳述したハンドブックです。奨学事業の価値は、どんな奨学生を採用したか、そして、どんな奨学生に育てたか、にあります。これらを基本に、指定校選定による奨学生募集、面接選考から合否、世話クラブ・カウンセラー依頼と選定、オリエンテーション実施など奨学生の受入れと奨学期間中のケアおよび歓送会に至るまでの手順を説明しています。また、「奨学生選考ガイドライン」を示し、公平で差別のない選考が各地区選考委員会ですすめられるよう徹底しています。

10. 米山カウンセラー・ハンドブック

世話クラブ、カウンセラーの役割、奨学生の心得と各種手続きおよびカウンセリング事例などについて記載した米山カウンセラーおよび世話クラブ関係者必携の冊子です。冊子巻末に、“ハラスメント相談室開設のご案内”と“奨学生ハンドブック”が合併されています。

ロータリアンとして、ハラスメントへの認識を深め、ハラスメントの無い奨学事業推進を呼びかけました。

11. 米山奨学生ハンドブック

奨学生として知っておくべき“ロータリーの歴史と目的”や“奨学事業の目的”や、奨学生としての義務と責任を記載しました。また、奨学生が行う各種手続きを説明し、カウンセラーをはじめとしたロータリアンとの交流で留意する点をQ&A形式で分かり易くまとめました。

また、“ハラスメント相談室の開設”をコラムで紹介するなどハラスメントへの認識を呼びかけました。

12. 広報用ポスター・バナー

地区協議会や地区大会会場に展示するための奨学事業紹介ポスター（B1サイズ×2枚組）を作成し、全地区のガバナー事務所および希望クラブに配布しました。また、大型展示資料として好評を得ている事業紹介バナー（2セット）を地区大会などの展示用に貸し出しました。

13. ホームページ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

2009年度はホームページの全面リニューアルを行い、8月10日に日本語・英語サイト、8月25日に中国語・韓国語サイトを相次いで公開しました。

初めてサイトを訪れた人でも必要な情報をすぐに見つけるようデザインを一新し、情報を大幅に整理しました。事業紹介DVD「すばらしい贈り物」と「心をつないで、世界へ」も、動画で視聴が可能です。最も関心の高い、奨学生や学友に関するニュースは更新頻度・情報量ともに高め、寄付の成果をより実感してもらえよう工夫しました。

奨学金プログラムの詳細や奨学生の提出書類、Web版「ハイライトよねやま」、事業報告書や財務諸表といった基本的な奨学事業情報も掲載しています。また、地区別の寄付金納入明細表も毎月公開しています（ID・パスワード付）。なお、このホームページは、ロータリー・ジャパンのサイトにリンクして、広くロータリアンに情報を提供しています。

14. カウンセラーメーリングリスト

Eメールアドレスを保有するカウンセラー経験者が任意で参加し、活動の紹介や相談・アドバイスの情報共有とコミュニケーションを図りました。

15. 電子メールによる情報発信・提供：ハイライトよねやま

Eメールとホームページを通じ、ロータリアン向けに「ハイライトよねやま」を発行し、奨学事業の最新ニュース、寄付金状況速報、学友情報などを発信しました。

2. 寄付クラブ・個人・法人の表彰

(1) 達成クラブ（普通寄付金および特別寄付金合計額）

達成金額	達成クラブ数	達成クラブ名	備考	
			創立年月日	会員数
1億4千万円	2	京都南ロータリークラブ	1954/ 3/11	215名
		名古屋名東ロータリークラブ	1978/ 6/20	48名
1億3千万円	2	大阪ロータリークラブ	1922/11/17	258名
		※京都ロータリークラブ	1925/10/ 7	194名
1億2千万円	3	※東京ロータリークラブ	1920/10/20	325名
		※東京南ロータリークラブ	1950/ 8/ 4	174名
		※奈良ロータリークラブ	1952/ 3/27	145名
1億1千万円	2	東京江北ロータリークラブ	1960/ 3/17	55名
		※京都西ロータリークラブ	1958/ 2/ 3	110名
1億円	5	横浜南ロータリークラブ	1962/ 3/30	74名
		横浜ロータリークラブ	1927/ 6/ 1	178名
		大阪南ロータリークラブ	1952/12/16	128名
		※大津ロータリークラブ	1950/12/19	110名
		※大阪北ロータリークラブ	1952/12/16	174名
9千万円	5	土浦ロータリークラブ	1958/ 2/14	58名
		東京西ロータリークラブ	1955/ 6/23	152名
		岸和田ロータリークラブ	1954/ 5/19	41名
		大阪東ロータリークラブ	1957/ 6/ 6	121名
		※京都東ロータリークラブ	1956/ 5/21	101名

8千万円以下では
 8千万円達成クラブ数： 7クラブ (3) 7千万円達成クラブ数： 13クラブ (4)
 6千万円達成クラブ数： 27クラブ (9) 5千万円達成クラブ数： 47クラブ (7)
 4千万円達成クラブ数： 123クラブ (16) 3千万円達成クラブ数： 243クラブ (20)
 2千万円達成クラブ数： 422クラブ (31) 1千万円達成クラブ数： 628クラブ (23)

注：※本年度達成クラブ、会員数は1月1日現在 () は本年度達成クラブ数

Ⅷ. 寄付金の推進

1. 寄付金の実績

	寄付金額	本年度予算比	前年度決算比
普通寄付金	414百万円	4.15%減	2.43%減
特別寄付金	913百万円	10.33%減	14.66%減
合計	1,327百万円	8.49%減	11.19%減

(2) 功労者、功労クラブ、功労法人、特別功労法人

	本年度増加数
米山功労者	6,095名
米山功労クラブ	812クラブ
米山功労法人	6社
米山特別功労法人	13社

米山功労者表彰者実数（10万円毎）

第1回：1,995名	第2回：1,007名	第3回：700名
第4回：781名	第5回：466名	第6回：306名
第7回：200名	第8回：126名	第9回：78名
第10回：99名	第11回～第19回：240名	第20回～第29回：45名
第30回～第39回：21名	第40回～第49回：11名	第50回以上：20名

(3) 2009年度高額寄付累計者（2009年度に寄付実績のある個人・法人）

【個人寄付】

坂本精志氏（2760：名古屋名東 RC）累計額 115,720,000 円

【法人寄付】

妙高企業株式会社（2590：横浜鶴見北 RC）累計額 7,000,000 円 藤林豊明氏

岡城産業株式会社（2700：福岡南 RC）累計額 8,000,000 円 富永 泰氏

(4) クラブ創立記念特別寄付

地区	クラブ数	寄付合計	地区	クラブ数	寄付合計
2510	2	40万円	2620	6	60万円
2530	1	10万円	2630	1	10万円
2550	2	20万円	2750	9	190万円
2560	2	40万円	2760	10	250万円
2570	4	40万円	2780	3	30万円
2770	10	130万円	2640	1	10万円
2790	9	201万円	2650	1	10万円
2820	4	40万円	2670	2	80万円
2580	6	180万円	2710	2	20万円
2590	11	160万円	2720	1	20万円
2600	5	80万円	2730	6	120万円
2610	3	60万円	合計101クラブ		1,801万円

(5) 地区大会記念寄付

地区	寄付合計	地区	寄付合計	地区	寄付合計
2550	20万円	2840	20万円	2780	30万円
2570	30万円	2580	123万円	2690	11万円
2770	20万円	2590	30万円	12地区 合計	404万円
2790	30万円	2600	30万円		
2820	30万円	2750	30万円		

IX. 会議および研修会の開催

1. 評議員会

2009年度 第一回 評議員会		
日時・場所	出席者	議事
2009.8.30（日） 10:00～11:12 場所： グランドプリンスホテル 新高輪	出席：52名 議決権行使書提出：10名 陪席：2名 列席：12名 欠席：4名 計：80名	議長：多田 宏評議員 a. 2008年度第二回評議員会議事録承認の件 b. 寄付行為一部変更の件 c. 2008年度 事業報告案の件 d. 2008年度 決算の件 監事による監査報告 e. 2009年度 収支予算一部修正の件 f. その他、理事会予定議案報告、常務理事会・専門委員会報告、庶務報告
2009年度 第二回 評議員会		
日時・場所	出席者	議事
2010.6.2（水） 13:30～15:00 場所： メルパルク東京	出席：48名 議決権行使書提出：15名 列席：12名 欠席：5名 計：80名	議長：多田 宏評議員 a. 2009年度 第一回評議員会議事録承認の件 b. 理事補欠選任の件 c. 2010年度 事業計画案の件 d. 2010年度 収支予算案の件 e. 2010年度 奨学資金特別積立財産取崩の件 f. その他、理事会予定議案報告、会計収支報告、常務理事会・選考委員会・専門委員会報告、庶務報告

2. 理事会

2009年度 第一回 理事会		
日時・場所	出席者	議事
2009.8.30（日） 13:30～14:15 場所： グランドプリンスホテル 新高輪	出席：28名 議決権行使書提出：6名 陪席：12名 列席：3名 欠席：2名 計：51名	議長：板橋敏雄理事長 a. 2008年度 第二回理事会議事録承認の件 b. 2009年度 評議員2名選任の件 c. 寄付行為一部変更の件 d. 2009年度 選考委員選任の件 e. 会計処理規程一部改定の件 f. 2008年度 事業報告案の件 g. 2008年度 決算の件 監事による監査報告 h. 2009年度 収支予算一部修正案の件 i. その他、評議員会議案報告、常務理事会・専門委員会報告、庶務報告
2009年度 第二回 理事会		
日時・場所	出席者	議事
2009.8.30（日） 14:22～14:30 場所： グランドプリンスホテル 新高輪	出席：35名 陪席：5名 列席：3名 欠席：3名 計：46名	議長：板橋敏雄理事長 a. 理事長、副理事長、常務理事選任の件 b. 任期満了により退任する役員への感謝の件
2009年度 第三回 理事会		
日時・場所	出席者	議事
2010.6.3（木） 13:30～15:30 場所： メルパルク東京	出席：33名 議決権行使書提出：3名 陪席：1名 列席：2名 欠席：2名 計：41名	議長：板橋敏雄理事長 a. 2009年度 第一・二回理事会議事録承認の件 b. 評議員選出の件 c. 2011学年度奨学生採用の件 d. 2010年度 事業計画案の件 e. 2010年度 収支予算案の件 f. その他、評議員会議案報告、会計収支報告、常務理事会・選考委員会・専門委員会報告、庶務報告

3. 常務理事会

日時	出席者	主な議事
2009. 8. 6(木)	出席：11名 委任状：1名 計：12名	前述の理事会・評議員会での議事事項に加え、以下の件につき審議した。 a. 専門委員の委嘱の件 b. 2009年度公益認定タスクグループ設置の件
2009.11.27(金)	出席：12名 欠席：1名 計：13名	c. 第2760地区1億円寄付実績と奨学生採用数算出の件 d. 募集要項の件 e. 現地採用奨学金制度の件
2010. 3.26(金)	出席：11名 欠席：2名 計：13名	f. ガバナー・エレクト／次期米山奨学委員長合同セミナー開催の件 g. 理事会・評議員会の議案の件 h. ローターリーの友「よねやまだより」契約更新の件
2010. 5. 7(金)	出席：13名 計：13名	i. 2010年度独立監査人選定の件 j. 就業規則および関連規程改定の件

4. 選考委員会

日時	出席者	主な議事
2010. 2. 24(水)	出席：6名 欠席：2名 計：8名	a. 2010年4月採用クラブ支援奨学生特例申請の件 b. 事業の使命に基づいた選考基準の策定の件 c. 指定校選定手順の件 d. 2010学年度奨学生採用承認の件 e. 奨学生選考委員の育成の件

5. 専門委員会

専門委員会	開催日	主な議事
財務委員会	2009.10.15(木) 2010. 4.15(水)	a. 2009年度 資産運用方針の件 b. 2010年度 資産運用方針案の件 c. 2010年度 独立監査人選定の件 d. 2010年度 収支予算案の件 e. 寄付状況の件
広報委員会	2009.10.29(木) 2010. 3.10(水)	a. 学友版DVDの評価および今後の予定の件 b. 米山梅吉記念館内の展示パネルの差し替えの件 c. 一般への広報についての取り組みの検討の件 d. 2010年度広報計画の件 e. 寄付金減少に対する方策の件 f. 「ロータリーの友」よねやまだよりの契約更新の件
学務・学友委員会	2010. 1.21(木) 2010. 4. 2(金)	a. 2800地区(山形県)学友会設立の件 b. 2010-11年度ホームカミング制度実施の件 c. 第2760地区1億円寄付実績と奨学生採用数算出の件 d. 現地採用奨学金制度の件 e. 2011学年度奨学生採用数および奨学金別採用数内訳の件 f. 2011学年度奨学生割当数算出方法の件 g. 募集要項・申込書一部改定の件 h. 米山記念奨学事業の目的に沿った奨学生採用方針の確認の件

6. 研修会の開催

(1) 2010-11年度ガバナー・エレクト研修会／次期米山奨学委員長合同セミナー

全国34地区のガバナー・エレクトと2010-11年度地区米山奨学委員長を対象とする合同セミナーが2009年12月1日に開催されました。米山記念奨学事業への理解を深めていただくとともに、地区における積極的な推進を呼びかけました。また、今回初の試みとして米山奨学委員長対象のセミナーを2日目にも開催し、より実践的な情報交換が図られました。

プログラム (主なもの)

2009年12月1日(火) 【合同セミナー】

- ・板橋理事長挨拶
- ・黒田正宏氏 (RI理事) 基調講演
- ・米山学友卓話：張 旭梅さん (中国／東京広尾RC)
アルチャナ・シュレスタ・ジョシさん (ネパール／鈴鹿西RC)
- ・全体フォーラム
講師：関 博子氏 (第2750地区前米山奨学委員長)
足立 功一氏 (第2500地区直前ガバナー)
米田真理子氏 (第2640地区ガバナーエレクト)

2009年12月2日(水) 【地区米山委員長セミナー】

- ・講演 磯田郁子氏 (大阪東淀ちやまちRC会員・第2660地区次期米山奨学委員長)
(独) 日本学生支援機構 (JASSO)
大阪日本語教育センターの日本語教師
- ・分科会

(2) 米山奨学事業に関する意見交換

2009年8月開催および2010年6月開催の評議員会・理事会終了後、意見交換を行いました。現地採用奨学金や奨学生採用、寄付増進に対する広報など現状の課題について積極的な意見がだされました。

X. 庶務事項

1. 役員辞任

第2610地区理事 前山正一 P.G. (七尾RC) から2010年6月30日付けの理事辞任届けが提出されました。これを受けて6月2日開催の評議員会において後任理事を選出しました。なお、前山正一氏は2005年8月から約5年間理事としてお務め頂きました。

2. 登記

理事変更登記は、2009(平成21)年9月9日に完了しました。

3. 文部科学省関連

■ 実地検査

2010年1月25日（月）に文部科学省高等教育局学生・留学生課の2名の検査官による実地検査が行われました。検査は法人業務の運営状況、事業内容および実施状況、会計処理および資産状況について行われました。

実地検査は文部科学省所管の公益法人に対し、三年に一度、定期的に行われています。

なお、2010年6月4日付けにて実地検査結果通知を受け、2点の改善を要する事項の指摘がありました。

- ・改善を要する事項：a. 理事および評議員の定数の上限と下限の幅が大きい。
- b. 収支予算書の借入限度額及び債務限度額の注記の記載もれ。

これらの指摘に対して次の対応をしました。

- a. については2011年6月に開催される理事会および評議員会において定数の幅を縮小する決議を行う予定です。
- b. については6月28日に提出した予算書に注記を記載しました。

■ 租税特別措置法証明書

2010年5月6日（木）に、文部科学省高等教育局学生・留学生課へ旧租税特別措置法の証明書交付の申請をし、6月30日付けの証明書を受領しました。

なお、証明書の有効期間は発行日から2年間となります。

* 租税特別措置法：相続税の優遇措置。遺贈した財産は相続財産から控除される。

4. 監査

(1) 外部監査

下記のとおり、会計および会計書類その他の手続について、永山茂行公認会計士による監査を受けました。

〔監査日〕

2009年7月分……2009年8月24日	2010年1月分……2010年3月3日
〃 8月分…… 〃 9月28日	〃 2月分…… 〃 4月1日
〃 9月分…… 〃 10月30日	〃 3月分…… 〃 4月27日
〃 10月分…… 〃 11月26日	〃 4月分…… 〃 5月25日
〃 11月分…… 〃 12月24日	〃 5月分…… 〃 6月28日
〃 12月分……2010年1月29日	〃 6月分…… 〃 7月13日

(2) 監事監査

監事は永山茂行公認会計士の監査報告をうけ、下記のとおり会計報告および業務の執行につき監査を行いました。また、業務監査を行うため、常務理事会に出席しました。

2009年7～9月分…2009年11月12日 実施

2009年10～12月分…2010年2月16日 実施

2010年1～3月分…2010年5月31日 実施

2010年4～6月分…2010年7月21日 実施

5. ロータリー研究会で米山学友がスピーチ

第38回ロータリー研究会が2009年11月18日～20日に東京・台場で開催されました。第一日目の本会議開会式で韓国学友の第18代駐日本国大韓民国特命全権大使 ^{クォン チョル ヒョン} 權 哲 賢 氏が挨拶を、各種報告においては板橋敏雄理事長から「米山記念奨学会報告」を行いました。また、二日目の配偶者プログラムでは、台湾学友で羅東西RC 会員、2005-06年度第3490地区PDGの許 國 文氏 ^{キョ コク ブン} が卓話を行いました。二日間に亘り米山学友が活躍しました。

6. 台湾学友会による日本人対象奨学金がいよいよスタート！

台湾米山学友会が設立した「日本人若手研究者奨学金」は、留学中に支援を受けた日本のロータリーへの恩返しに、台湾の大学・大学院で学ぶ日本の若者へ奨学金を支給し、日台の絆を深める人材を育てようとする制度。学友からの寄付金を原資に、毎月25,000台湾ドルを1年間支給するほか、カウンセラー制度も備えて、台湾での留学生生活を物心両面で支えるプログラムです。その第1号奨学生に選ばれたのが、国立政治大学大学院へ留学する山下世莉（せり）さんです。2009年9月に渡台すると、台湾学友会では、空港への出迎えや宿舎への案内、歓迎会の開催など、万全の態勢で山下さんを迎えました。山下さんは「空港で学友会の方が横断幕を広げて温かく迎えてくださり、それまでの緊張が一気に解けました。その後も、多くの元米山奨学生の方々とお会いする機会があり、留学時代のお話や、アドバイスを聞くことができました。阮理事長はじめ皆さんが、“私たちが台湾の家族だと思って、いつでも頼ってください”と言ってくくださり、これほど心強いことはありません。米山学友会の奨学生になれたおかげで、毎日充実した生活を送ることができていると実感しています」と、感想を寄せてくれました。

7. 寄付金情報

□ 学友からの寄付

全 炳 台 (ジョン ビョン テ) 氏 (韓国 / 1980-83年 / 東北大学大学院 / 仙台北 RC)

現在、建国大学の忠州キャンパスの総長であり、韓国 Kukwon RC の会員の全氏が2009年8月に仙台北 RC へ30年振りに里帰りされ、例会でスピーチされた後、8万円のご寄付を頂きました。「是非とも米山功労者になっていただきましょう」とクラブのメンバーが2万円の寄付を追加され、全氏はこの度、第1回米山功労者として感謝状が贈呈されました。

清野 允中 (キヨノ ノブナカ) 氏 (帰化前氏名：^{オウ メイ チョウ}王 銘 調)

(台湾 / 1990-92年 / 名古屋工業大学大学院 / 江南 RC)

2009年8月にホームページ改定の案内メールを学友宛に送信したところ、「月1万円ずつの寄付をして、ロータリークラブの活動に参加したい」との返信がありました。清野氏は現在、シンガポールに駐在中だが奥様が日本におられるため、奥様から毎月送金して頂くことになりました。2009年8月25日に最初の1万円の送金があり、2010年6月30日現在9万円の累計となりました。

張 虞 安 (チョウ イュウ アン) 氏 (中国 / 1998-2000 年 / 近畿大学大学院 / 交野 RC)
 米国在住の張氏から、2007 年 10 月に \$ 1,000 (円換算 : 112,030 円)、2008 年 11 月には世話クラブの交野 RC を通して \$ 1,000 (円換算 : 97,060 円) のご寄付を頂きました。2009 年も \$ 1,000 (円換算 : 84,034 円) をご送金下さり、累計額は 293,124 円となりました。

林 維 宏 (リン ウェー ホン) 氏 (台湾 / 1987-1988 年 / 岡山大学大学院 / 岡山南 RC)
 2009 年度ホームカミングで 2690 地区に招待された林氏から 10 万円のご寄付を頂きました。林氏は中華民国扶輪米山会常務理事で、台北民生 RC 会員。2008-09 年度ガバナー補佐を務めました。台湾のロータリー活動と学友の日台交流を支えています。2009 年 12 月 12 日に台湾で行われた総会で板橋敏雄理事長より感謝状が贈呈されました。

劉 平 (リュウピン) 氏 (中国 / 1997-98 年 / 福岡教育大学大学院 / 宗像 RC)
 福岡県の大手住宅地図メーカーに勤める米山学友の劉氏が、2009 年 1 月に開催された九州学友会新年会の席上で「感謝の気持ちを表したい」と、米山記念奨学会へ 10 万円の寄付を申し出てくれました。劉氏のカウンセラーである安増惇夫氏 (ロータリー米山記念奨学会理事・地区米山記念奨学委員長) は彼女との出会いによって「退屈だったロータリー観が変わった」と語っています。

阮 允 恭 (ゲン イン キョウ) 氏 (台湾 / 1971-74 年 / 神戸大学大学院 / 神戸 RC)
 (社) 中華民国扶輪米山会第 4 代理事長の阮氏から、世話クラブである神戸 RC を訪問した際に米山記念奨学会へ 10 万円の寄付を頂きました。阮氏は 2009 年度ホームカミングで来日されたり、2008 年 7 月には岩手・宮城内陸地震のお見舞い金を台湾学友に呼びかけてくれるなど台湾学友会の中心メンバーであります。

朴 盛 才 (パク ソンジユ) 氏 (韓国 / 2009-10 年 / 横浜国立大学大学院 / 横浜西 RC)
 奨学会への感謝の気持ちとして、2010 年 5 月に初任給の一部 15,000 円の寄付を頂きました。朴氏はハイライトよねやま 112 号でも掲載された田鎬鎮氏のようにできる限り毎月節約し、これからも当会へ寄付したいと抱負を述べていました。なお、6 月に 2 回目 30,000 円の寄付を頂きました。

姫 軍 (ジ ジュン) 氏 (中国 / 1995-97 年 / 東京大学大学院 / 東京臨海 RC)
 2007 年、08・09 年と、3 年連続で北京から 50 万円を送金してくれた姫氏から、2010 年 6 月付けで 50 万円の送金がありました。今回のご寄付で累計は 2,170,000 円になり、米山功労者 20 回を達成されました。

□元台湾留学生から寄付

林 清木氏は 1980 年代に日本に留学し、東京商船大学 (現在:国立大学法人東京海洋大学) を 1987 年 3 月、大学院機関科を修了され母国台湾に帰国されました。2009 年、林氏のお孫さんが日本棋院に来られるのにあわせて一緒に来日され、東京海洋大学越中島キャンパスを訪れました。昔、留学生時代に大変お世話になった御礼として台湾の留学生支援のために寄付をされたいと申し出られましたので、どこの奨学団体であるかを調査しようとしたのですが、林氏は日本語もたどたどしく、昔頂いた奨学金の団体を覚えていませんでした。また、2003 年に東京商船大学と東京水産大学が統合し東京海洋大学となったこともあり、過去の情報を探ることが困難となりました。そのため伊藤事務室長が海洋大学の留学生が米山記念奨学会からの支援を受け、大変お世話になっていることから、当会へのご寄付を提案され、60 万円のご寄付を伊藤事務室長が当会事務局を訪れ、手渡されました。

なお、台湾学友会前理事長の阮 允恭氏が林氏に連絡し、御礼を申し上げ、再度当会へのご寄付の意志を確認しました。また、林氏は感謝状をご辞退されました。次回台湾訪問の時に板橋敏雄理事長から御礼を申し上げる機会を作りたいと思っています。

8. 賠償保険加入

2007 年 12 月 25 日に正式に加入した賠償責任保険を引き続き 1 年間更改しました。
 期間 : 2009 年 12 月 25 日 ~ 2010 年 12 月 25 日

9. 奨学団体連絡協議会 (JISSA)

連絡協議会では総会、分科会を開催し留学生問題や奨学団体としての問題提起や情報交換を行いました。

広報ツール

リーフレット

※広報ツール詳細：42～44頁



NEW!

日本語と英語版のリーフレット
新会員や一般の方に。
日本語版は今年初登場!



米山記念奨学事業
豆辞典
奨学事業概要を
コンパクトに紹介する小冊子
全ロータリアンに配付!

学友の群像

活躍する米山学友を
一挙で紹介するシリーズ。
待望の第3巻発行!
Vol.1&2はHPでも
ご覧頂けます。



DVD



学友の活躍を
紹介するDVD!
HPではDVDを
はじめとする動画を
配信しています。
是非ご覧下さい。



▲動画配信

バナー

NEW!



◀バナー
地区大会のブース
展示に!
【無料貸し出し】
スタンドバナー▶
自立式でコンパクト
【有料頒布:8,000円】



スタンドバナーサイズ
(W800mm×H2,000mm)

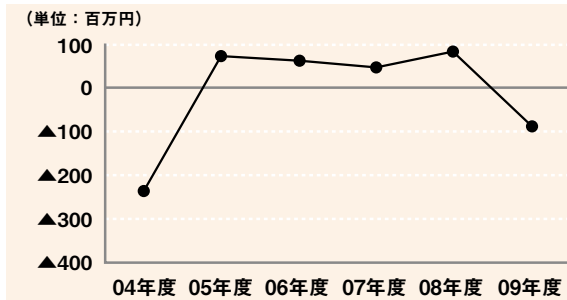
ポスターもあります!

バナーサイズ(W1,200mm×H1,800mm)

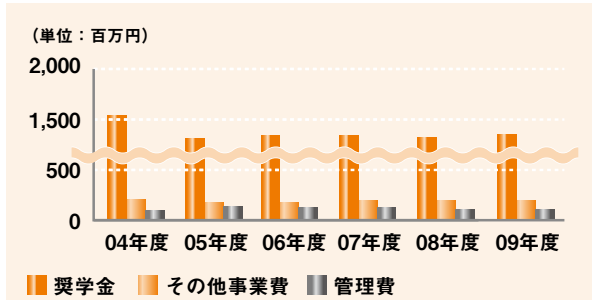
XI. 会計報告 (2010年6月30日現在)

1. 目で見える財政の推移

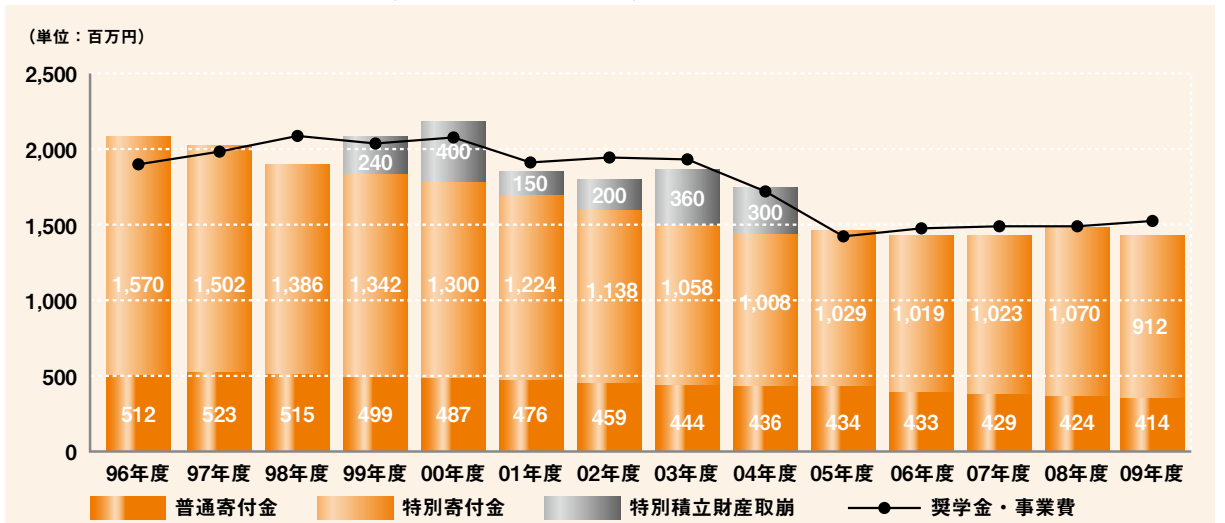
■正味財産の増減



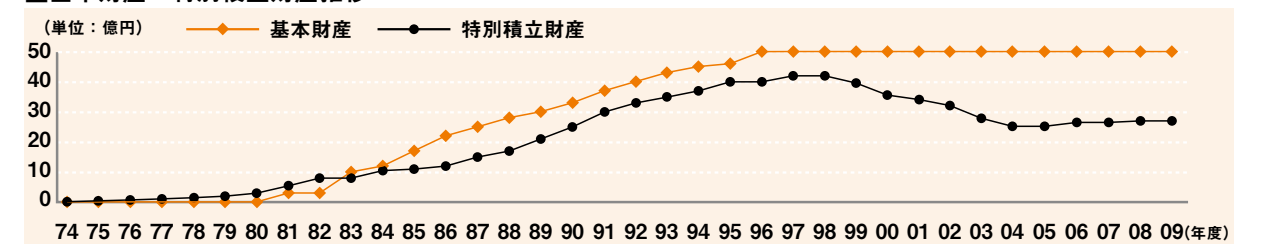
■支出推移



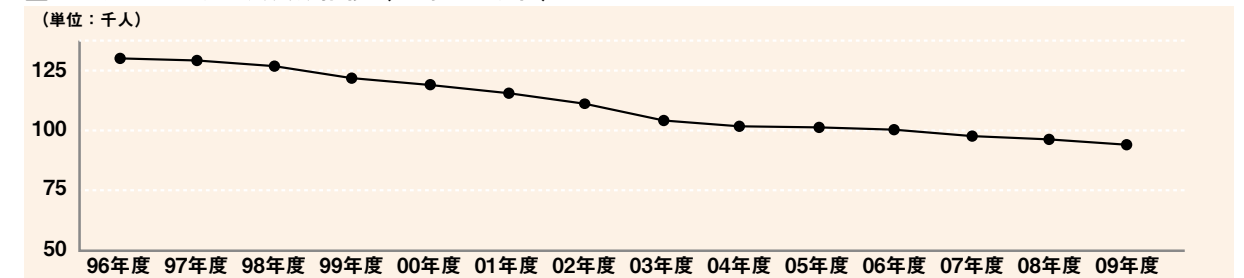
■寄付金と奨学金・事業費の推移 (1996年度～2009年度)



■基本財産・特別積立財産推移



■ロータリークラブ会員数推移 (1月1日現在)



2. 貸借対照表

資産の部 (単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
流動資産	391,846	299,413	341,615	320,774	222,432
預金	391,309	298,910	341,066	320,479	221,650
その他流動資産	537	503	549	295	782
基本財産	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
特別積立財産	2,550,000	2,700,000	2,700,000	2,803,967	2,804,489
その他固定資産	31,490	34,383	34,683	38,769	42,519
資産合計	7,973,336	8,033,796	8,076,298	8,163,510	8,069,440

負債の部 (単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
流動負債	65	717	0	0	92
固定負債	20,457	23,350	23,650	27,736	31,487
退職給付引当金	20,457	23,350	23,650	27,736	31,487
負債合計	20,522	24,067	23,650	27,736	31,579

正味財産の部 (単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
正味財産合計	7,952,814	8,009,729	8,052,648	8,135,774	8,037,861
(うち基本財産)	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
(うち特定資産)	2,550,000	2,700,000	2,700,000	2,803,967	2,804,489

(単位：千円)

負債及び正味財産合計	7,973,336	8,033,796	8,076,298	8,163,510	8,069,440
-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

(注) 1. 奨学資金特別積立財産は特別積立財産と称する。
2. 各年度財務諸表は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

3. 正味財産増減計算書

経常収益 (単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
普通寄付金	434,462	432,909	428,971	424,424	414,091
特別寄付金	1,028,872	1,018,671	1,022,934	1,069,694	912,869
(寄付金合計)	1,463,334	1,451,580	1,451,905	1,494,118	1,326,960
受取利息	125,423	111,116	104,428	95,478	93,544
敷金戻り収入	11,033	0	0	0	0
移転補償金収入	14,280	0	0	0	0
経常収益計	1,614,070	1,562,696	1,556,333	1,589,596	1,420,504

経常費用 (単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
事業費	1,420,927	1,432,274	1,445,710	1,444,880	1,457,966
(うち奨学金)	1,243,710	1,254,910	1,252,960	1,250,063	1,256,080
管理費	109,484	73,507	67,704	61,590	60,450
敷金支出	11,033	0	0	0	0
経常費用計	1,541,444	1,505,781	1,513,414	1,506,470	1,518,416

(単位：千円)

正味財産の増減	72,626	56,915	42,919	83,126	△97,912
----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	----------------

(注) 1. 各年度財務諸表は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

米山記念奨学会中国学友会2010総会 感恩 交流 奉仕

中国米山学友会の第2回総会が7月17日、上海国際会議センターで開かれ、中国全土と日本から集まった米山学友161人と、日本のロータリアン・家族ら253人の400人以上が参加する盛会となりました。今年度の中国学友会会長を務める張晋岩氏(1993-95/鈴鹿西RC)は、今回の主題として「感恩・交流・奉仕」を掲げ、「日本のロータリーへの感謝を伝え、幅広く交流を行い、奉仕活動をスタートする」との学友会活動方針を表明。壇上の学友からは、カウンセラーや世話クラブへの感謝の思いが次々に語られ、会場の各所で旧交を温めるロータリアンと学友の姿が見られました。



空港にもお出迎え!

受付準備におおわらわ

当会のスタンドバナーも初お目見え!

趣向を凝らしたプログラムの中でも、最も参加者を驚かせ、感動させたのは、世話クラブへの感謝盾の贈呈でした。今回の参加ロータリアンの所属クラブ全93クラブのうち、実に87クラブが中国の米山奨学生の世話クラブ経験があることから、中国学友会では、各世話クラブに宛てた感謝盾を用意。代表者として関場慶博パストガバナー(弘前RC)に壇上で贈呈した後、学友が各テーブルを回ってすべての世話クラブに贈呈しました。「こんなに立派な盾をもらえるとは思っても寄らなかった」「皆さんの気持ちは必ずクラブで報告します」と、各テーブルでは喜びの声とともに記念撮影が行われていました。



中国米山学友会
第2代会長 張晋岩氏



(財)ロータリー米山記念奨学会
理事長 板橋敏雄氏



中国米山学友会
初代会長 姫軍氏

会の締めくくりは、「手に手つないで」。広い会場を世代や国境を越えた人の輪で取り囲み、皆で歌う様は圧巻で、中には感激で涙する学友の姿もありました。

2002年以来、上海学友会の設立と活動を支援してきた中津川RCへの感謝、留学生生活を温かく支えてくれた世話クラブとカウンセラーへの感謝、そして、米山記念奨学金制度を支える日本のロータリーへの感謝——。中国の学友が寄せる深い感謝の気持ちが伝わった今回の総会・懇親会は、学友、ロータリアンそれぞれの胸に感動を刻んで無事終了しました。



乾杯!中津川RC



学友とそのカウンセラーペア3組が登壇



♪「手に手つないで」の大合唱。
会場が感動の渦に包まれ、ひとつの輪に!

打ち上げには理事長夫妻も参加して、労をねぎらいました!と同時に来年の学友会の結束がより強固になりました。



※米山記念奨学会HPで、当日の様子を動画で配信予定です